

2017 年度「卒業研究」（社会学科）課題リスト

※各学期の 5 領域の 5 課題から「卒業研究 1」として 2 課題、「卒業研究 2」として 2 課題を選択すること。ただし「卒業研究 1」と「卒業研究 2」で同じ領域の課題を選択することはできない。

※課題レポートは 1 課題につき、4000 字以上とする。

春学期（卒業研究 1）=====

「理論と方法」領域：

社会学者の著作・論文（必ず 1 本以上）、その社会学者（の著作・論文）について書かれた著作・論文（0 本でも可）をあわせて最低 3 本読んだ上で、自分でテーマを設定し、それについて自由に論じなさい。

*この課題には三段階の作業が含まれます。文献の選択、テーマの設定、論文の執筆。しかし作業がこの時系列に沿って進むとは限りません。もっとも重要なことは「テーマの設定」、つまり何を「問題」として立て、それを「どのように」論じるか、ということです。それは初めからどこかにあるものではなく、自分で発見（＝創造）するものです。文献を読みながらしだいに明らかになる場合もあれば、論じていくうちに変わっていくこともあります。自分の中に「問題」が発見（＝創造）されない限り、この課題にこたえることはできません。そのことをよく理解したうえで、研究に取り組んでください。

「自己と関係」領域：

「メディアと世論の関係について」

公的な議論の機会を提供し、世論を形成することは、これまでマス・コミュニケーションの重要な機能として位置づけられてきた。しかしテレビの時代を経てインターネットの普及へといたる過程で、その役割は大きく変化しているともいわれる。

では現代の日本社会において、それぞれのメディアはどのように世論を形成しているだろうか。またその形成過程は公共性などの観点からどのように評価できるだろうか。これらについて、メディアが果たす役割や将来のあり方を議論しながら考察しなさい。

考察に当たっては社会・政治・経済・国際関係などの分野から具体的な事例を選び、それに関する世論のありかたを新聞記事や番組その他を豊富に引用・参照しながら考察すること。

「生活と人生」領域：

現代の都市または地域社会に生じている問題を1つ取り上げて、具体的な統計データ、行政刊行物、各種文献などの資料を用いて具体的に説明しなさい。そのうえで、取り上げた問題について、資料とは別に学術的文献3点以上を参照して、社会学的知見に基づいて論じなさい。

「公共性と政策」領域：

日本における環境問題の論点の変化を歴史的に論じ、そのうえで日本の国際社会への貢献可能性について、①何を、②どのように貢献しうるか考察しなさい。その際、以下の条件を満たすこと。

- (1) 人権、生態系、社会運動、地域再生のうち、いずれかに言及すること。
- (2) 文献を5冊以上読んで、適切に用いること。
- (3) 新聞・雑誌記事などの参考資料を2点以上用いること。
- (4) 引用箇所が明示され、参考文献が適切に表示されていること。

「構造と変動」領域：

いま私たちが直面している、工業時代を超えて新たな発展段階に入った社会や経済は「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」といった様々な用語で記述されている。いずれの用語の社会や経済においても、人々の働き方は大きく変化していると言われている。3つ以上の文献を読み、「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」における働き方の変化に関する諸議論を整理したうえで、働き方の変化に関する仮説を立て、働いている人（3名以上）を対象にインタビューを実施し、仮説の検証や検証結果に関する考察を行いなさい。

秋学期（卒業研究2） =====

「理論と方法」領域：

「メディアと『忘れられる権利』について」

2014年5月、EU司法裁判所は、Googleに対し、ユーザー個人の「忘れられる権利」を認める判決を下した。この訴訟の背景には、アメリカの自由主義(プライバシー保護よりもパーソナルデータ利活用を重視)とEUの保護主義(特に個人のプライバシー保護重視の立場)の違いと対立があるものと考えられる。こうした状況を前に、日本でもパーソナルデータについての検討委員会を内閣府が立ち上げるなどの動きが見られる。

そこでまず「忘れられる権利」について適切に説明したうえで、アメリカの自由主義とEUの保護主義について、本または論文を三つ以上参考にしながら説明しなさい。さらに日本における検討委員会の審議内容やそれに関する報道などをていねいに調べて、日本がアメリカとEU両者の理念の間でどのような立場に現在あるのかをできるだけくわしく説明し、あなた自身の主張とその論拠を明らかにしなさい。

「自己と関係」領域：

原爆・空襲・沖縄戦などの戦争体験や、東日本大震災のような災害体験、あるいは水俣病などの公害の被害体験、といった苦難の経験ないしその記憶を、非体験者・非当事者は、いかに「自分ごと」としてとらえ、そこに関係していけるだろうか。そこには、どんな困難と可能性があるだろうか。これについて、5点以上の文献（単行本や論文）を参照し、かつ、なんらかの基準で選んだ3人以上にインタビューをおこなったうえで考察しなさい。

上記課題文中の「原爆・空襲・沖縄戦などの戦争体験や、東日本大震災のような災害体験、あるいは水俣病などの公害の被害体験、といった苦難の経験ないしその記憶」については、特定の災害や公害、戦争体験に絞って論じてよいし、複数のものを関連づけて論じてよい。

「生活と人生」領域：

現代の「価値とライフスタイル」の全体的動向について論じなさい。ただし、次の条件を満たすこと。

- (1) 現状だけでなく、これまでの歴史的変化についても論じること。
- (2) 根拠として、消費、アート、ポピュラーカルチャー、宗教のいずれかに関わる具体的現象についてのデータを2つ以上示すこと。(量的データでも質的データでもよい。)
- (3) 関連する学術的文献を5冊以上読み、そこから適宜引用するとともに、引用文献を示すこと。
- (4) 引用文は全体の字数の半分以下とすること。
- (5) タイトルは、レポートの結論を適切に表現したものとする

「公共性と政策」領域：

「以下の課題テーマから1つを選び、①その問題の概略について統計データ等の客観的資料を適宜引用しつつ概観し、②その問題に対して国家や地方自治体などの公的部門がどのような政策的対応を展開しているか具体的に説明し、③その政策的対応の社会的効果や課題点について考察しなさい。レポートをまとめるにあたっては、④単行本や論文など5本以上参照すること。

- a. 持続可能な福祉・社会保障のありかた
- b. 地方分権、地方行財政の課題
- c. 多様な人びと、ライフスタイルが共生する社会

「構造と変動」領域：

日本の「移民政策」または「異文化間の交流」に関する最近の新聞記事（2点以上）を検索して、それぞれの内容をまとめなさい（新聞名、記事の日付とタイトルを明記すること）。次に記事の事例と関連する文献（専門書や論文等）を参照して、取り上げた事例を通して見えるグローバリゼーションの進展と日本の社会問題を関連付けて考察しなさい。

■論文執筆に関する諸注意

・書式：各担当教員の指導および指示に従うこと。ただし、『社会学評論スタイルガイド』(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/jsr/JSRstyle.html>)を参照することを推奨する。

・引用の仕方

本文中に著者名（出版年：頁数）または（著者名 出版年：頁数）を記し、最後に引用文献リストを作成し、そこに該当する引用文献を掲載する。ただし、訳書の場合は、（著者名 原著出版年＝訳書出版年：頁数）を記す。

例 1：E・フロム（1941=1951: 20）によれば...

例 2：...「圧倒的に強い力に服従し、自己を破壊したいという欲望が存在する」（Fromm 1941=1951: 254）。

⇒ 論文の最後に引用文献リストを作成し、そこに引用文献を記す。

Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, New York: Reinehart and Winston. (= 1951, 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社.)

・引用文献リスト：引用文献の種類によって、形式が異なるので注意。

1) 日本語書籍：著者名，出版年，『書籍名』出版社。

宮島喬，1994，『文化的再生産の社会学——ブルデュー理論からの展開』藤原書店。

2) 日本語論文：著者名，出版年，「論文名」編者名『書籍名』出版社，頁。

高橋徹，1965，「日本における社会心理学の形成」高橋徹・富永健一・佐藤毅『社会心理学の形成』培風館，317-505。

3) 日本語論文（学術誌）：著者名，出版年，「論文名」『雑誌名』号：頁。

綿貫讓治，1994，「比較論・国際関係論的に見た日本の政治と社会」『社会学評論』45: 158-71。

4) 外国語書籍：Family name, given name, year, *book*, city: publisher.

Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, New York: Reinehart and Winston.

5) 訳書：外国語の箇所は同上。（＝訳書出版年，訳者名『書籍名』出版社。）

Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, New York: Reinehart and Winston. (= 1951, 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社.)

6) 外国語論文：Family name, given name, year, “thesis,” *journal*, number: pages.

Nownes, Anthony J., and Patricia Freeman, 1998, “Interest Group Activity in the States,” *The Journal of Politics*, 60(1): 86-112.